

北方圏センターでは平成11年度から、海外からの研修員受け入れ事業のひとつとして、「海外技術研修員受入事業」を道から委託を受けて実施している。その趣旨や内容などについてご紹介する。

候、風土、習慣、食事等の違いに戸惑い気味だった研修員も、今では、ある程度のコミュニケーションが図れるまでに日本語を習得し、自国との様々な違いを克服し、幼児・小学校等の教育技術や建築技術、貿易実務、医療技術などについて、北海道の公的機関や主要企業で、それぞれ母国で必要とされている技術の習得に毎日励んでいる。

そのほか、ホームステイや地域のお祭り・イベント、小中学生との交流会に積極的に参加し、進んで地域の人達と交流するなど楽しみながら、すばら

しい友好関係を築いてきている。

これまでの研修員は、帰国後それぞれの国の公的機関や企業の中心となって活躍しており、また、北海道滞在中に育まれた友好関係は今も続いているなど、この事業の成果は確実に進展してきている。

途上国からはこの受入事業の継続要望が強く、また、研修員を受入れた機関や企業の評価も高いところであり、今後一層充実した事業の実施が多方面から

望まれている。



空知管内北村の「田舎まつり」
沼上いかだ渡りレースで優勝!! (8月)

(北方圏センター国際協力部)



平成12年度北海道海外技術研修員
デニス シルングエ
(Dennis Silungwe)
ザンビア共和国
北海道立理科教育センターで研修中



が住んでいた地域にあり、その部族の言葉で”Mosi-oa-Tunya”と言われ、「轟く霧」という意味です。そのあまりにも壯観な光景は驚異さえ

感じさせ、人はこの自然の作り出す現象に恐れを抱くほどでした。滝の柱は数キロ離れた所からも見ることができ、毎分50万立方メートルの水が100メートル下に向かって流れ落ちます。それまで穏やかだったザンベジ川の流れは広大な玄武岩崖を駆け下りた後一転して激流になり、表情豊な渓谷を切り裂くように流れていきます。最も見晴らしの利くポイントはナイフェッジにかかる橋の上で、そこからはイースタン・カタラクト(急流)とビクトリア滝の最高の景色を見ることができます。

觀 光

計り知れない程の深さの渓谷や360度見渡すこの橋からの壮大な光景には、ハラハラするほどです。自然が作り出

したこのすばらしい景色は忘れるものとのできないものとなるでしょう。滝に面した反対側には、熱帯雨林を通り抜ける舗装された遊歩道があつて、滝を眺めるためとろどころに空き地が開かれています。更にこの道は、ナイフェッジにかかる橋のほうまで続いています。乾季には水位が下がるため、探検家デビット・リビングストーンがこの滝を初めて発見した場所でもあるリビングストーン島まで歩いていくこともできます。

体験スポット

ビクトリア滝地域はにわかに南部アフリカの「アドベンチャー・センター」として有名になり、アウトドアスポーツ愛好家には人気のスポットとなっています。ビクトリア滝にかかる橋からの111メートル下へ落下するバンジージャンプ、バトーガ渓谷を下っていくラフティング、ビクトリア滝の険しい崖を下降するアプザイレン等、多数のアクティビティがあります。

見事な夕日、フレンドリーな人々、神秘的な伝説、人の手が加わっていない自然、轟く霧—ビクトリア滝、真のザンビアがそこにあります。

サンビア共和国—眞のアフリカ
南アフリカ中央に位置するザンビア共和国は、周囲を8カ国に囲まれたアフリカ大陸の中でも特異な国です。多くの人達にとってザンビアはアフリカの未発見の宝石です。北部にあるタンガニーカ湖の南端からカリバ湖にかけて、広大なバロステ氾濫原からルワングア渓谷、きらめくバングエルル湖やどこまでも続く湿原、カフエ国立公園にあるブサンガ平原の壮大な眺め、世界最大のビクトリア滝まで、これがザンビア、眞のアフリカです。美しく壮大なザンビアの自然を紹介します。

ビクトリア滝 (轟く霧)

この滝は、1800年代にコロロ部族